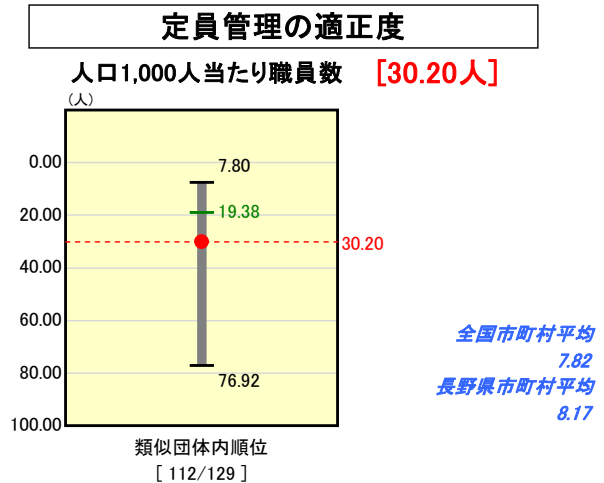
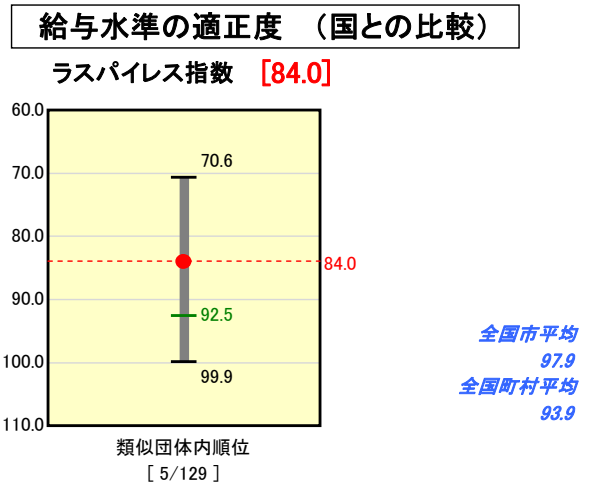
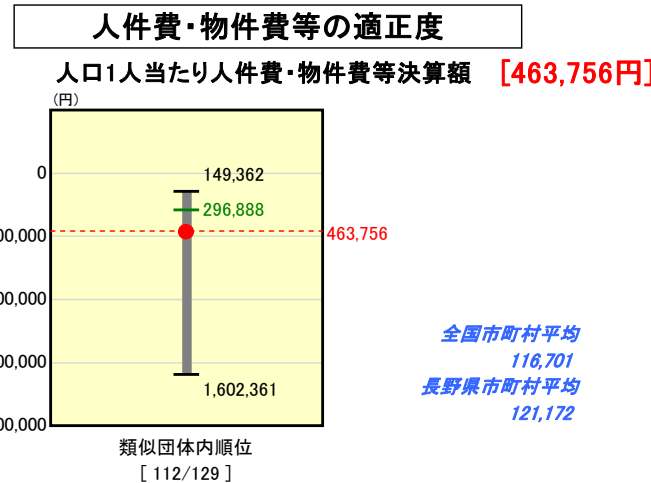
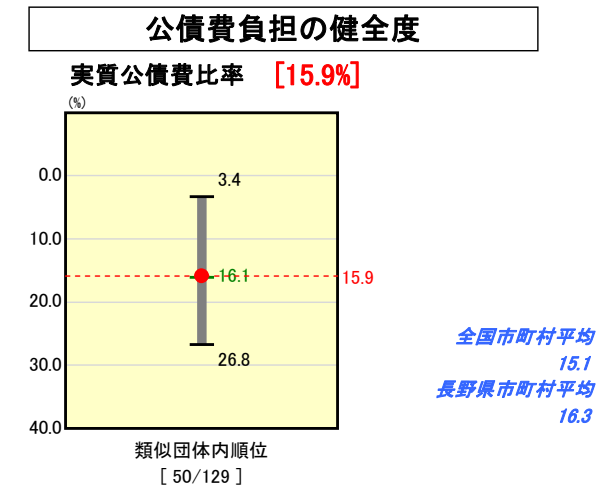
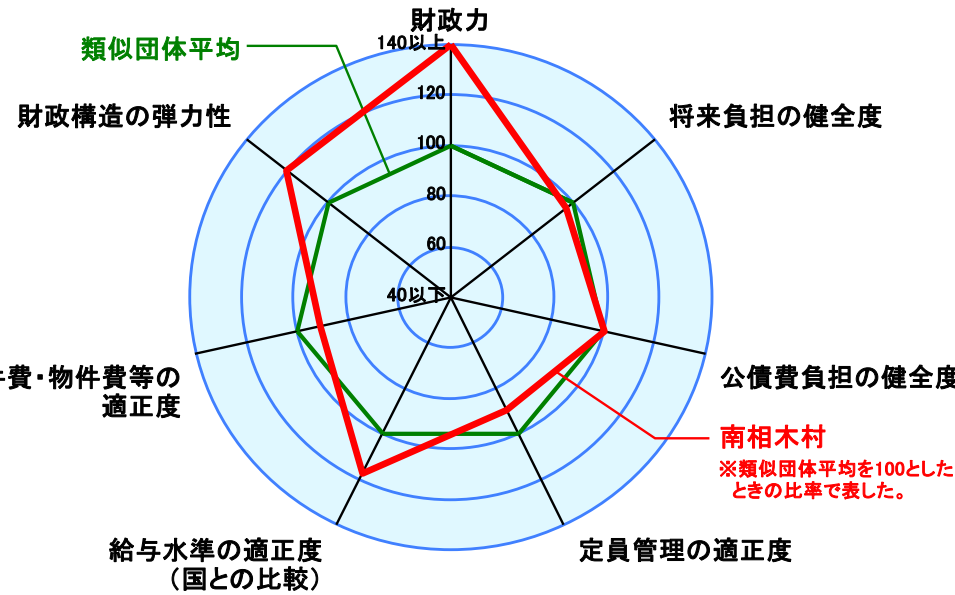
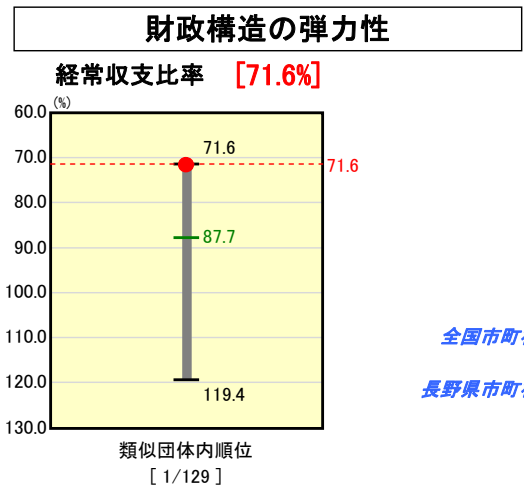
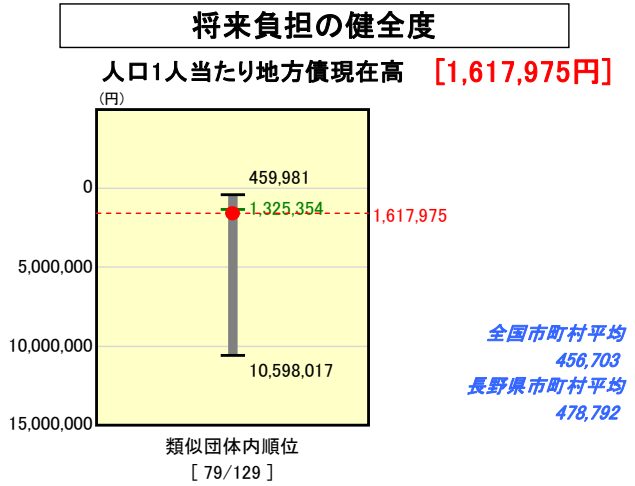
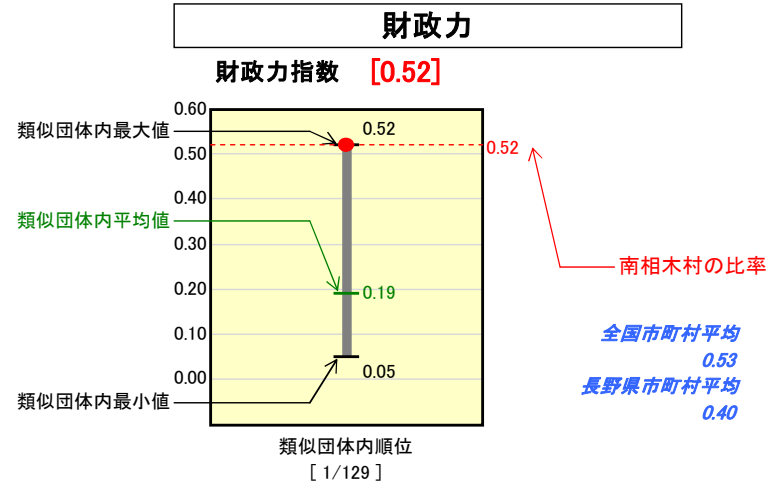


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

長野県 南相木村

人口	1,192 人(H19.3.31現在)
面積	66.03 km ²
歳入総額	1,781,019 千円
歳出総額	1,720,383 千円
実質収支	60,636 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
東京電力榑揚水発電所の供用開始にともない、ダム固定資産税が村の収入として入ってきたため大幅に税収が増加し、財政力指数が伸びた。しかし、少子高齢化が進む当村では、その他の地場産業がほとんど無く、固定資産税も償却資産のため今後減額となる。その部分を十分考慮し、過剰な公共事業はせずに堅実な財政運営が必要となる。

【経常収支比率】
類似団体より大幅に下回っているが、こちらはダム固定資産税収入により、基準収入額が増加したためである。しかし、この固定資産税も年々大きく減額となる為、平成19年度決算からは、3～5%毎年経常収支比率の伸びが予想される。今後は地方債発行の抑制や事務事業の見直しを行い、経常収支比率の上昇を少しでも抑える。

【ラスパイレース指数】
ラスパイレース指数の数値は、全国または類似団体と比べても非常に低くなっている。

【人口一人当たりの地方債現在高】
生活基盤整備事業(道路・教育・簡易水道等)に対する地方債残高が多く残っていること、人口規模が非常に小さいことにより金額が大きくなっている。今後は今まで以上に地方債の発行について必要性を精査し、後世の負担を極力少なくする事に努める。

【実質公債費比率】
類似団体とほぼ同じ数値となっているが、近年地方債を発行していないこと償還のピークが過ぎたため、実質公債費比率は下がっていくと思われる。今後も地方債の発行は極力抑え、数値の減少に努力する。

【人口一人当たりの職員数】
類似団体より非常に大きな数値となっているが、現在の行政サービスを維持していくためには人員削減は非常に難しいと考える。